

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 18 年 1 月 26 日 (2006.1.26)

【公開番号】特開 2002-221265 (P2002-221265A)  
 【公開日】平成 14 年 8 月 9 日 (2002.8.9)  
 【出願番号】特願 2001-17229 (P2001-17229)  
 【国際特許分類】

**F 1 6 H 15/38 (2006.01)**

**F 1 6 H 57/04 (2006.01)**

【F I】

F 1 6 H 15/38

F 1 6 H 57/04 J

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 12 月 1 日 (2005.12.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、トラニオン 2 の側面に潤滑油を供給するための第 2 の油路 15 の位置は、パワーローユニットの構造や仕様等により所定の位置に決定されるが、図 10 および図 11 に示すトラニオン 2 において、第 2 の油路 15 をピボット穴 10 から一定以上離れる位置に形成する場合にはそれに応じてピボット穴 10 と同心の油溝 13 の外径を大きくしなければならない。しかしながら、油溝 13 の外径を大きくすると、トラニオン 2 の強度上の点や加工上の点で不利となる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

また、図 12 および図 13 に示すトラニオン 2 においては、第 2 の油路 15 をピボット穴 10 から一定以上離れる位置に形成する場合、その第 2 の油路 15 をピボット穴 10 の直径方向に延びる第 3 の油路 16 を介して油溝 13 に連通させることができるから、油溝 13 の外径を特に大きくするような必要がない。しかしながらこの場合、トラニオン 2 に第 3 の油路 16 を加工し、またその第 3 の油路 16 に止めプラグ 17 を装着しなければならないから、構造が複雑となり、加工が面倒となる。